

ヒューマンライツセミナーの軌跡

1992年よりIMADR日本委員会が中心になり毎年開催してきたヒューマンライツセミナーは、2017年で26回を迎えた。東京と大阪の交互で、IMADRの団体会員による実行委員会のもと開催してきたセミナーの軌跡をたどる。なお、各回450～600人規模の参加をえて開催されてきた（一部のみ登壇者紹介）。

第1回ヒューマンライツセミナー

1992年9月7日（月）：東京・日比谷公会堂

部落差別の実態と解放への課題／組坂繁之（部落解放同盟中央執行委員）

1993年国際先住民年とアイヌ民族／秋辺得兵（北海道ウタリ協会理事）

在日韓国・朝鮮人の実態と解放への課題／裴 重度（民族差別と闘う連絡協議会全国事務局長）

第2回ヒューマンライツセミナー 差別なき民主社会をめざして

1993年6月11日（金）：大阪市立中央公会堂

講演 人権を考える－世界人権宣言と私／イーデス・ハンソン（アムネスティ・インターナショナル日本支部代表）

太鼓演奏 太鼓集団「怒」（部落解放同盟大阪府連浪速支部）

シンポジウム エイズと人権

第3回ヒューマンライツセミナー 差別なき民主社会をめざして

1994年7月20日（水）：兵庫県・神戸国際会館大ホール

講演 南アフリカの選挙後の状況－未来への挑戦／ノナ・ゴソさん（南アフリカ全国民主法律家協会、弁護士）

ひとり芝居「ヒミコ伝説」／新屋英子

第4回ヒューマンライツセミナー 人種差別撤廃条約の年内早期批准を求めて

1995年9月20日（水）：東京・九段会館

シンポジウム 人種差別撤廃条約の年内早期批准を求めて

第5回ヒューマンライツセミナー 子どもの人権が守られた社会は全ての人の人権が守られた社会

1996年7月5日（金）：大阪市中央公会堂

アピール 子どもの権利条約と日本のマイノリティの子どもたちの状況

コンサート 光 玄（フォークシンガー）、いらみなぜんこ（フリーアナウンサー）ほか

第6回ヒューマンライツセミナー 人権擁護施策推進法の具体化を求めて

1997年6月11日（水）：東京・日比谷公会堂

シンポジウム 人権擁護施策推進法に期待するもの

第7回ヒューマンライツセミナー 一緒に考えてみませんか？ これからの人権教育～「人権教育のための国連10年」をわたしたち一人ひとりがどう具体化するか

1998年6月18日（木）：大阪市立浪速同和地区解放会館大ホール
シンポジウム

太鼓演奏 太鼓集団「怒」（部落解放同盟大阪府連浪速支部）

第8回ヒューマンライツセミナー どうする？ 差別身元調査事件

1999年6月4日（金）：東京・日比谷公会堂
パネルディスカッション どうする？ 差別身元調査事件

第9回ヒューマンライツセミナー

あらゆる分野で人権文化の創造を!! ～「人権教育のための国連10年」これまでの5年とこれからの5年

2000年9月19日（火）：大阪市立浪速人権文化センター大ホール

第1部 基調提案 友永健三（部落解放同盟解放・人権研究所所長）

第2部 分科会

第10回ヒューマンライツセミナー 国連から見た日本の人種差別～人種差別撤廃委員会勧告をどう生かすか

2001年7月19日（木）：東京・千代田区公会堂

第11回ヒューマンライツセミナー さまざまな立場から人権擁護法案の必要性・意義を探る

2002年7月18日（木）：大阪市立浪速人権文化センター大ホール

第12回ヒューマンライツセミナー 女性差別撤廃委員会日本報告書審査を通して

2003年9月12日（金）：東京・豊島区公会堂

第1部 基調報告 審査の概要報告

第2部 マイノリティ女性の声ー運動の現場から

第3部 パネルディスカッション 未来へ 委員会最終コメントをどう活かすか

第13回ヒューマンライツセミナー 人権侵害救済法の制定と国内人権機関の設置をもとめて

2004年9月21日（火）：大阪市立浪速人権文化センター大ホール

特別報告 フィリピン人権委員会の経験と日本の国内人権機関設立に向けての期待／ピュリフィカシオン・ヴィレラ・キスンビン（フィリピン人権委員会委員長）

第14回ヒューマンライツセミナー

グローバル化の中の人身売買～その撤廃に向けて

2005年7月12日（火）：東京・中央区立中央会館（銀座プロッサム）

パネルディスカッション

シグマ・フーダ（人身売買に関する国連特別報告者）

ニマルカ・フェルナンド（IMADR 理事長）

清水澄子（I 女性会議常任顧問、IMADR-JC 理事）



第15回ヒューマンライツセミナー 「不可視化」「周縁化」を乗り越えて～人種主義・人種差別に関する国連特別報告者の日本報告書を受けて

2006年9月25日（月）：大阪市立浪速人権文化センター
大ホール

基調講演 武者小路公秀（IMADR-JC 理事長）

パネルディスカッション

北口末広（部落解放同盟大阪府連合会書記長）

宋貞智（多民族共生人権教育センター事務局長）

金城 馨（関西沖縄文庫）

リリアン テルミ ハタノ（甲南女子大学多文化共生科助教授）



第16回ヒューマンライツセミナー

立ち上がりつながるマイノリティ女性～アイヌ女性・部落女性・在日朝鮮人女性によるアンケート調査報告と提言

2007年9月19日（水）：東京・中央区立中央会館（銀座ブロッサム）

パネルディスカッション

第17回ヒューマンライツセミナー スリランカの平和構築と人権

2008年9月8日（月）：大阪市立浪速人権文化センター

第1部 講演 スリランカ内戦の現状と人権状況－現地からの報告／ニマルカ・フェルナンド（IMADR 理事長）

第2部 パネルディスカッション スリランカの平和構築と人権確立へ向けて／中村尚司（パルシック 理事）

第18回ヒューマンライツセミナー

先住民族アイヌの権利確立に向けて

2009年9月1日（火）：東京・中央区立中央会館（銀座ブロッサム）

第1部 アイヌ古式舞踊公演／レラの会の皆さん

第2部 講演会 先住民族アイヌの権利確立に向けて

加藤 忠（社団法人北海道アイヌ協会理事長）

長谷川 修（レラの会会長／アイヌウタリ連絡会事務局長）

上村英明（市民外交センター代表／恵泉女学園大学教授）



第19回ヒューマンライツセミナー 待ったなし、日本における人種差別撤廃～国連勧告の実現に向けて

2010年9月3日（金）：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）

第20回ヒューマンライツセミナー 人権・平和の実現を支えるもの～今、私たちはどのような時代にいるのか

2011年9月13日（金）：東京・日本教育会館 一ツ橋ホール

特別報告 東日本大震災・被災地支援活動／片岡明幸（部落解放同盟中央執行委員）

基調報告 平和への権利とは／武者小路公秀（IMADR-JC 理事長）

報告 遠ざかる平和と人権－スリランカから／ニマルカ・フェルナンド（IMADR 理事長）

第21回ヒューマンライツセミナー 雇用と人権～日本とインドの経験および課題から見る

2012年9月5日（水）：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）

IMADR 創立 25 周年記念 第22回ヒューマンライツセミナー 差別撤廃にむけて市民社会に求められるもの

2013年6月14日（金）：東京・ヤクルトホール

基調報告 反差別国際運動の挑戦－IMADR 創立 25 周年を迎えて／ニマルカ・フェルナンド（IMADR 理事長、弁護士）

記念講演 差別撤廃にむけた国際的潮流と日本／林 陽子（弁護士、国連女性差別撤廃委員会委員、IMADR-JC 顧問）

第23回ヒューマンライツセミナー

しきじのいま、そしてこれから～世界・日本

2014年7月2日（水）：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）

基調提案 識字の歩みと現在の課題／森 実（大阪教育大学）

パネルディスカッション

識字教室から 菅原智恵美（日之出よみかき教室）

日本語教室から 田村幸子（おおさか識字・日本語センター）

夜間中学から 次田哲治（奈良市立春日夜間中学）



第24回ヒューマンライツセミナー

職場で求められる人としての尊厳～外国人技能実習制度と労働法制の改定問題から考える

2015年9月9日（水）：東京・銀座プロッサムホール

第25回ヒューマンライツセミナー

グローバル時代におけるビジネスと人権

2016年9月5日（月）：大阪・東成区民センター大ホール

講演 高橋宗瑠（ビジネス・人権資料センター日本代表）

菅原絵美（大阪経済法科大学国際学部准教授）



第26回ヒューマンライツセミナー

サプライチェーンにおける人権侵害～その時 企業はどうする

2017年9月13日（水）：東京・タワーホール船堀 大ホール

講演 白木朋子（特定非営利活動法人 ACE 事務局長）

和田征樹（株式会社エナジェティックグリーン共同代表）

反差別国際運動設立趣旨書

1、世界には、様々な差別と人権侵害が存在している。差別と人権侵害は、差別され人権侵害をこうむっている当事者のみならず、差別し、人権侵害をしている人々自身の人権をもそこなうものであるとともに、社会の平和をも脅かすものである。

それゆえ、差別撤廃と人権確立は、人類の多年にわたる願いであり、多くの人々の努力によって、幾多の犠牲を払いながら、前進させられ、それは今日、国連憲章や世界人権宣言、国際人権規約や人種差別撤廃条約、その他の人権諸条約に、その精神が盛り込まれている。

しかしながら、われわれをとりまく情勢をみると、全世界には、いまだに深刻な差別が存在しているし、人権侵害があとをたっていない。それどころか、悪化の徴候すら存在しており、これが世界の平和を脅かしているといわねばならない。

この際、われわれは、国連憲章や世界人権宣言の根本精神に立ち返り、国際連帯を強化する中で、それぞれの国家のみならず、世界中の政府間組織、民間団体と諸個人が、差別撤廃と人権確立にむけて、飛躍的に努力を強化する必要に迫られている。

2、かつて日本は、国内で人権を抑圧し、周辺の諸国を侵略し、甚大な被害を与えたが、そこには、人権の無視と強烈な民族優劣思想が存在していた。

先の戦争に敗北し、これを深く反省することの中から、戦争を放棄し、主権は国民にあることを明らかにし、基本的人権の尊重と国際協調を基調とする新しい憲法を制定した。

しかし、その日本にも、今日、部落差別や民族差別、女性差別や障害者に対する差別が存在しているし、数々の人権侵害はあとをたたない。

このような状況の中で、政府や地方自治体はもとより、民間団体や個人の立場からも、国際連帯の下、日本をはじめ世界中にある一切の差別を撤廃し、人権を確立するための努力が積み上げられてきている。

とりわけ、1922年3月3日に結成された全国水平社以来、60数年に及ぶ差別撤廃運動の伝統を持つ部落解放運動は、そのための取り組みを積極的に展開してきた。

戦前におけるドイツのユダヤ人迫害に対する抗議行動、戦後におけるインドの被差別民衆との連帯活動や人種差別撤廃を求める世界会議への参加、そして近年では、国連の提起する差別撤廃と人権確立にむけた活動へ積極的に参加してきている。

とりわけ、1980年には国際人権シンポジウム、1982年には第1回反差別国際会議、1984年以降は毎年12月に世界人権宣言の精神の具体化を求めた集会を開催しているし、1983年には第2回人種差別と闘う世界会議に参加してきている。

これら一連の取り組みの中で、日本の国内はもとより、全世界で差別撤廃と人権確立を求めている諸団体や諸個人との連携が深められてきた。

3、そこで、今日、国連での諸活動と連携し、世界人権宣言の精神の具体化、とりわけ全世界から一切の差別を撤廃し、人権を確立することを目的とした、「反差別国際運動」を結成するものである。

今日、われわれは、過去のどの時代よりも国際化が進んだ時代に生きている。このことは、とりもなおさず、一国における差別や人権侵害は必然的に他国にも波及することを意味しており、一国内における差別撤廃と人権確立は、全世界のそれと切り離して難く結びついているのである。さらに、過去の歴史が教えているように、平和の状態においてのみ、人権が守られるのである。

「反差別国際運動」は、全世界の心ある諸団体、諸個人と固く連帯して、全世界からの差別の撤廃と人権確立そして平和擁護のために、奮闘するものである。

1988年1月25日

IMADR あらたな 30 年への課題

未来の世代によりよい世界を残すために、私たちはすべての運動団体と
結束しながら、これらの課題に取り組んでいきます。 ニマルカ・フェルナンド

水平社宣言の「ヒトの世の熱」「人間の光」と日本国憲法 9 条の
「平和に生存する世界諸国民の権利」を結合させた闘いを。 武者小路公秀

先達の想いを引き継ぎ、「世界の水平運動」をさらに広げよう 組坂繁之

IMADR のビジョンを活性化させ、人種主義、差別、偏見との闘いの
ために革新的な戦略を模索していこう。 マイケル・シャープ

IMADR の今後の課題は、脆弱な状況に置かれている集団および
社会の周縁に追いやられている人びとの人権侵害に立ち向かう民衆の運動に
参加していくことです。 ブルナド・ファティマ・ナティサン

IMADR が築いてきた地球規模の連帯をさらに強化させ、あらゆる形態の差別に
終止符を打ちましょう。 ドゥルガ・ソブ

人権の剥奪のために苦しみ続けている人びとが世界にこれほどたくさん存在する現状を前に、
やるべきことがたくさん残っていることを認めないわけにはいきません。
マリオ・ホルヘ・ユーティス

マイノリティの可視化のため、IMADR はメディアにアクセスできる NGO と
協力しながら、コミュニティの訓練、優秀な当事者出身の
ジャーナリストの養成促進のような協働的取り組みを考えてもよいのでは。
ヘレン・ザックスタイン

世界人民は永続的集団であり、コミットメントの淵源です。
国家主義的隔絶と社会的排除の時代にあって、
マイノリティの状況は本質的に危うくなっています。
何よりも、人びとこそが重要です。 People Matter

テオ・ファン・ボーベン

反差別国際運動創立 30 周年記念冊子

差別と闘う 30 年 これまで・そして・これから

2018 年 6 月 6 日 発行

編集・発行 反差別国際運動 (IMADR)

The International Movement Against All Forms
of Discrimination and Racism

〒104-0042 東京都中央区入船 1-7-1

(財) 松本治一郎記念会館 6 階

TEL 03-6280-3101 FAX 03-6280-3102

E-Mail imadr@imadr.org

ウェブサイト <http://www.imadr.net>

翻訳協力 平野裕二

印刷・製本 モリモト印刷株式会社